

文楽

寿二人三番叟

ことぶき ににん さんばそう

文楽は大阪で生まれ大阪で育まれた、大阪の誇る伝統芸能です。現在、能、狂言、歌舞伎などと共に、世界無形文化遺産に選定されております。

この文楽は物語を語る太夫、それを助け、情景から人物の心理描写まで弾き表す三味線、そして細やかな遣いで、人間以上の仕種を見せる人形、この三者から成り立つ総合芸能です。

中でも人形は、世界でも類を見ない、一体を三人の遣い手が操る「三人遣い」という技法で演じられます。

本日ご覧戴く「寿二人三番叟」は、能楽の「翁」を義太夫節に写した物で、お目出度い席には欠かせない祝儀曲です。「天下太平」「五穀豊穰」を祈って舞い踊る三番叟の動きは、大地を踏みしめ、田を耕し、稲を植える、昔ながらの農作を表しています。

リズムカルに、時にユーモラスに舞い踊ります三番叟、後半の「種時ぎ」という場面で、本日は特別に舞台を降り、皆様の「ご多幸」を念じて、今日の良き日に、幸せの種を蒔きに参ります。

お席の間が狭い所は、恐れながらお譲り戴き、三番叟を出迎えて戴きます様、お願い申し上げます。

太夫

豊竹睦 太夫
豊竹希 太夫

三味線

野澤 勝平
鶴澤 清丈
鶴澤 友之助

主遣い

吉田 簗二郎
吉田 玉助